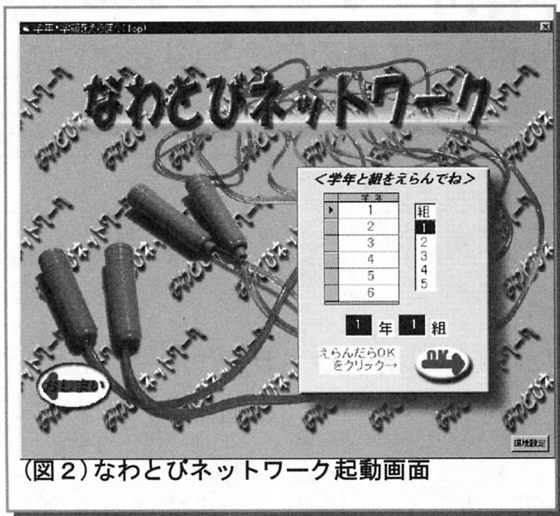


## (2) 「なわとびネットワーク」のソフトウェアの特徴



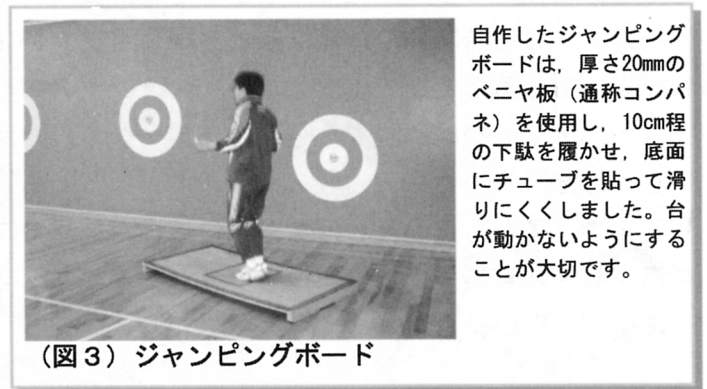
(図2) なわとびネットワーク起動画面

- ① VisualBasic6.0とAccess2002を開発環境とし、Windowsとネットワークに対応しています。
- ② 校内LANがあればデータファイルの共有化機能により、ネットワーク上の複数のパソコンから同時に利用することができます。
- ③ データはサーバ（または他のクライアント）上のAccessデータファイルとして保存されるため、Access2002があれば、児童名、種目名、目標回数、自己ベスト回数等の各種データの更新や再利用も比較的容易です。なお、児童名、自己ベスト回数記録については、「なわとびネットワーク」からの変更も可能です。

## (3) ジャンピングボードの効果

ジャンピングボード（図3）を用いると、短なわとびの苦手な児童が、跳躍のタイミングを身につけられるばかりでなく、膝への負担も軽減されるため、非常に大きな効果を発揮します。

自作も容易で、厚さ20mmのベニヤ板（通称コンパネ）で製作したものであれば、体重80kg程度までは長期の使用にも耐えられるようです。



自作したジャンピングボードは、厚さ20mmのベニヤ板（通称コンパネ）を使用し、10cm程の下駄を履かせ、底面にチューブを貼って滑りにくくしました。台が動かないようにすることが大切です。

(図3) ジャンピングボード

## (4) 跳躍回数カウントスイッチの無線化

ジャンピングボード上で跳躍した回数を自動的にカウントするために、ワイヤレスマウス（図4）を採用しました。有線での接続にくらべて結線トラブルがなくなり、その有効性を確認することができました。

マウスの左ボタンをクリックすることでカウントされますので、スポンジを付けてボードからの衝撃を吸収する工夫をしました。



ジャンピングボードによる跳躍数をカウントするために、ワイヤレスマウスを用いました。スポンジをつけて衝撃を吸収する工夫をしました。マウスとコンピュータは1～2mの距離をおくことができます。

(図4) ワイヤレスマウス